

## 物語を紡ぐのは小説だけではない

名作の舞台を旅した記録。

作家たちの日常を写し込んだポートレート。

歌舞伎や能など伝統芸能のワンシーン。

文芸写真をゆっくり鑑賞していると、思い出の作家たちに出会うような、作品の舞台に引き込まれるような感覚に陥ることがあります。

写真家は作品や被写体に刺激を受けながらも、独自の視点で「物語」を写真に収めようとしている。

映像の世界に身を置きながら、誰もが思い描くことのできる「その瞬間」を刻もうとしている。

### 「文藝絶佳」

それは、文芸の世界に魅せられた4人の写真家が紡ぐ極上の物語。



「潮騒」(「小説のふるさと」より) 周南市美術博物館蔵



林 忠彦

Tadahiko Hayashi (1918-1990)

木村伊兵衛、土門拳と並ぶ昭和を代表する写真家のひとり。終戦直後から文士や文学風景を写した一連の作品は特に有名で、林忠彦の名を世に知らしめた。



「三島由紀夫」(「昭和の肖像」より) 1970年、池袋東武デパート・三島由紀夫展控室にて撮影



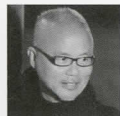
齋藤 康一

Koichi Saito (1935-)

林忠彦、秋山庄太郎両氏の助手を務め、大学在学中から週刊誌の仕事にスタート。3,000人以上の人物写真を撮影している。被写体の持つ雰囲気や滲み出るような自然体の作品が高い評価を得ている。



「翁」(「観世清河寿の能」より)



林 義勝

Yoshikatsu Hayashi (1950-)

学生時代から人物写真を撮影。歴史写真紀行「元禄の夢跡」や歌舞伎・能楽など伝統芸能の写真、文学・風土などを背景に織り込んだテーマ写真を得意とし、国内外を問わず高い評価を得ている。



「町田文学散景」より



タカオカ 邦彦

Kunihiko Takaoka (1955-)

重森弘淹氏に写真を学んだ後、1978年から林忠彦に師事。遠藤周作、森村誠一、俵万智、道尾秀介、三浦しをんなど町田ゆかりの作家を多数撮影。人物写真を中心に活躍している。

## 関連イベント

### オープニングイベント

山田雅人「かたり」の世界 — 「小説のふるさと」から三島由紀夫「潮騒」・壺井栄「二十四の瞳」

かたり：山田雅人(タレント)、ゲスト：タカオカ邦彦(写真家)  
4/20(日) 午後2時から3時30分 ※開場は午後1時30分  
定員80名(先着順) 申込不要

### 対談&トークショー

記念対談

「文学と写真表現をめぐって」

ゲスト：岡井耀毅(写真評論家)、齋藤康一(写真家)  
5/31(土) 午後2時から3時30分 定員80名(申込順)  
町田市民文学館ことばらんど(042-739-3420)で  
4/11(金) 午前9時から申込受付

写真雑誌『フォトコン』公開対談

「写真家・林忠彦、父・林忠彦」

ゲスト：林義勝(写真家)、藤森邦晃(『フォトコン』編集長)  
5/18(日) 午後2時から3時30分 定員80名(申込順)  
町田市イベントダイヤル(042-724-5656)で  
4/11(金) 正午から申込受付

トークショー

「書棚」「新・小説のふるさと」の試み  
— ぼくが文学の世界に魅かれる理由

ゲスト：齋田純一(写真家)  
6/7(土) 午後2時から4時 定員80名(先着順) 申込不要

### 映画上映会

飯沢耕太郎とみる、映画「十二人の写真家」

ゲスト：飯沢耕太郎(写真評論家)  
4/26(土) 午後2時から4時 定員80名(申込順)  
町田市イベントダイヤル(042-724-5656)で  
4/1(火) 正午から申込受付

※[オープニングイベント][対談&トークショー][映画上映会]の会場は、町田市民文学館2階 大会議室

### アーティスト・トーク/ギャラリートーク

#### アーティスト・トーク

ゲスト：タカオカ邦彦(写真家)  
5/25(日)、6/29(日) いずれも午後2時から3時  
申込不要 直接、文学館2階展示室にお集まりください

#### ギャラリートーク(展示解説)

5/13(火)、6/10(火) いずれも午後2時から3時  
申込不要 直接、文学館2階展示室にお集まりください

### 町田市民文学館ことばらんど

〒194-0013 東京都町田市原町田 4-16-17

TEL 042-739-3420

JR 横浜線「町田駅」ターミナル口から徒歩 8分

小田急線「町田駅」東口から徒歩 12分

